

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 23 日現在

機関番号：32698

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23520713

研究課題名(和文) 英語句動詞の新たな類型化および習得のための視聴覚教材とPCソフトの開発

研究課題名(英文) Re-Classification of English Phrasal Verbs and Development of Audio-Visual Teaching Materials

研究代表者

高橋 千佳子 (Takahashi, Chikako)

東京純心女子大学・現代文化学部・准教授

研究者番号：80350528

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円、(間接経費) 990,000円

研究成果の概要(和文)：英語句動詞に関する英語話者への調査結果を基に、動画と音声によって基本義からの意味拡張を理解させる教材を作成し、実践授業を実施した。まず、英語母語話者に英文容認度チェックを行い、容認された例文をテキストに使用した。英語句動詞の基本的な意味を、動画と音声で学生に提示し、その拡張した抽象的な意味を宿題プリントで類推させることで、内在化を図った。結果を従来型の授業を行う統制群と比較し有意差を示した。学習者のレベル別比較も行い、宿題プリントのエラー分析も実施した。結果をスペイン、カナダ、イタリアの国際学会で発表して好評を博した。現在は出版に向けて調整を進めている。

研究成果の概要(英文)：We have conducted empirical classroom research on English phrasal verbs, based on Cognitive Linguistics theories. First, we asked native speakers of English to judge English sentences. Then, with those approved sentences, we have developed an original teaching material for English phrasal verbs, using audio-visual aids. In order to prove the effectiveness of our lessons, we have divided our students into two groups: a control and an experimental group before conducting empirical classroom lessons. We have analyzed the results statistically and presented them at several international conferences. Currently, we are consulting with several publishers on a teaching material focusing on English phrasal verbs.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学 外国語教育 e-ラーニング・コンピュータ支援学習(CALL)

キーワード：英語教育 e-learning 英語句動詞

## 1. 研究開始当初の背景

英語句動詞は汎用性が広いが、その分、意味に多義性があり学習困難とされている。加えて英語句動詞に焦点を当てた学習者向け教材は少ない。映像世代と言われる日本人大学生が楽しみながら、きちんと本質が理解できる英語句動詞の教材が必要であると考えた。

認知言語学では、形が同じであれば意味に関連性があると考え、英語前置詞をはじめとした多義語の分析を、語の中心義をイメージしたイメージ図を用いて視覚的に行っている(Lakoff 1987 等)。英語句動詞についても Susan Lindner が 'out' と 'up' を含む句動詞の分析を認知言語学の視点から行っており(Lindner 1980)、授業での実践は Ruzka-Osten がポーランド人英語学習者向けに実施した。

高橋は平成20年から句動詞の研究を開始し、パイロットスタディーとして東京純心女子大学の学生に授業内でモデル授業を実施した。これは、認知言語学的アプローチを用いてイメージ図から句動詞の基本的な意味と、その意味拡張を気付かせて学ばせるという画期的なものであった。その後、高千穂大学の松谷教授と、静止画ではなく動画を開発し、また、学生が自宅で復習できる JavaScript を用いた自主教材も開発し、平成21年に韓国、平成22年にシンガポールの学会で発表していた。

Lakoff, G.(1987.) *Women, Fire, and Dangerous Things*, Chicago and London: The University of Chicago Press

Lindner, J. Susan (1983.) *A Lexico-Semantic Analysis of English Verb Particle Constructions With OUT and UP*, Indiana University Linguistics Club.

## 2. 研究の目的

本研究は、メタファーによる基本義からの意味拡大を唱える認知意味論の理論を英語句動詞習得に応用し、映像を用いた英語句動詞の授業、及び自主学習としての視聴覚ソフトが、英語に対する学習者の動機づけとなることを明らかにする。また、コーパスデータと英語母語話者への文法容認度アンケートを通じて、新たな視点から英語句動詞の分析を行い、日本人英語学習者にとって、楽しく学習しやすい教材を開発することを目的とする。

## 3. 研究の方法

### (1)平成23年度(データ集積)

まず、コーパスデータ(COCA)から動詞をタイプ別に分類し、13名の英語母語話者に文法容認度を依頼して不自然でない文であることを確認した。次に容認度が確認された文を用いて英語句動詞の教材を作成した。9月には、高橋の指導教授であり認知言語学の専門家である米国ジョージタウン大学のアンドレア・タイラー教授から直接アドバイスを受け、実践授業のためのテキスト作成を進めた。

### (2)平成24年度(実践授業の実施)

平成23年後期から準備を行っていた教材作成を授業で実践した。平成22年にシンガポールの学会で発表した際、参加者から、学習者のレベルが中級に偏っていたことが指摘された為、研究計画を修正し、学習者のレベルが分かれるように対象者の選別を工夫した。また、前は動画だけであったが、音声も加えることにした。

平成24年4月から7月にかけて東京純心女子大学と高千穂大学の47名の日本人大学生対象に授業を実施した。47名を実験群24名と統制群23名に分け、週1回、総合英語の授業で最初の30分を句動詞の授業に費やした。具体的な順序は以下のとおり。

TOEIC Part5 の英文法力を測る問題を全員に実施し、実験群と統制群で英語力の差が無いようにした。また、初級・中級・上級のレベルに分かれるように工夫した。

全員に同じ英語句動詞のテスト(in out 以外のものも含んだもの)を実施した。

in out と、基本的な動詞である go, come, take, bring, break, put を組み合わせた英語句動詞の授業を実施した。統制群は、英文読解の中に句動詞が入ったものをテキストとし、実験群は、基本義の説明を行った。

最終日に英語句動詞のテストを実施した。句動詞が含まれている文は最初のテストとは異なるが、扱う句動詞は同じものとした。

最初のテストと最終日のテストから、in out を含んだ句動詞だけを抜き出し、その差を統計的に検証した。結果は以下のとおり。

a. 実験群と統制群のポストテスト プレテストを比較し、tテストにかけた結果、1.86で有意差が証明された。

b. ポストテスト プレテストを学習者の英語能力別に比較したところ、初級レベルと上級レベルの学習者に、より効果があることが解った。

	初 級	中 級	上 級
実験群	4.833	3.067	5.333
統制群	1.889	1.000	1.667

実験群で用いた映像と音声は初級学習者の興味を喚起し、英語学習への動機づけとなったためと考えられる。一方、基本義からの意味拡張の作業が、上級学習者の分析的な興味を引き起こしたことに起因すると思われる。

毎回学生に課していた宿題プリントから、エラー分析も行った。エラーの種類としては、a.動詞に起因するもの。b.不変化詞に起因するもの。c. 他の句動詞と混同したものに分類された。動詞については、自動詞と他動詞の区別がついていない学習者が多く見られた。これは、平成 26 年度からの科学研究費助成事業で対応したい。また、動詞と不変化詞で作られる句動詞の全体としてのイメージが定着しきれていない面を強化する方向で、テキスト作成に取り掛かることとした。平成 25 年 3 月にはスペインのバレンシアで行われた INTED 2013 で今回の実験結果を発表し、映像テキストの分かり易さに多くの関心を得た。

### (3) 平成 25 年度

(海外での発表及びテキスト作成)

第二回実践授業の結果を様々な国際学会で発表した。6 月には国際認知言語学会第 12 回大会 (ICLC-12) で、11 月にはイタリア、フィレンツェで ICT for Language Learning 第 6 回大会に参加して発表を行った。平成 26 年 3 月には、アメリカから英文原稿作成者を日本へ招聘し、研究協力者である高千穂大学の松谷教授と共に、英語句動詞のテキスト原稿を完成させた。

現在、完成させたテキスト原稿を基に、出版社と打ち合わせを行っている。

## 4 . 研究成果

本研究の意義・重要性として 2 点あげられる。

(1) 英語句動詞に関する論文や著書は増えているが、動画と音声を用いた教材は珍しく、実践授業の結果でも、その効果が検証された。研究発表の場においても、世界中の研究者から好意的なフィードバックを得た。このことから、本研究の信頼性と意義が実証された。

(2) 学生から「楽しい」との感想が多く出たため、学習者の動機づけという点でも有効性が証明された。特に、英語を苦手としている学生が楽しく積極的に学ぶ姿が印象的であった。

## 5 . 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 6 件)

松谷明美 (2013).

'Wh-movement and Clefting,' *Proceedings of 11<sup>th</sup> Hawaii International Conference on Arts and Humanities*, pp.1130-1139. 概要のみ査読有

高橋千佳子・松谷明美(2013).

'Learning English Phrasal Verbs with Audiovisual Aids' *Proceedings of the 6<sup>th</sup> International Conference "ICT for Language Learning"* Vol.6, pp.222-226  
概要のみ査読有

高橋千佳子・松谷明美(2013).

'Learning English Phrasal Verbs with Moving Pictures' *Proceedings of International Association of Technology, Education and Development (IATED)* Vol.7, pp.4630-4635. 概要のみ査読有

高橋千佳子 (2013). 「 "A guy came up to me." なぜ水平軸の移動に 'up' が使われるのか? 」東京純心女子大学紀要 第 17 号 p.11-18 査読有

高橋千佳子・松谷明美(2012).

'Cognitive-Based Methodology of English Phrasal Verbs' *US-China Foreign Language* Vol.10 pp.1297-1305 査読有

高橋千佳子・金子智香(2011).

「プロトタイプ理論を用いた英語前置詞の実践的授業」第 11 回日本認知言語学会論文集 pp.256-265. 概要のみ査読有

[学会発表](計 6 件)

松谷明美 (2014).1 月 12 日

'Wh-movement and Clefting,' 11<sup>th</sup> Hawaii International Conference on Arts and Humanities, ハワイ、ホノルル

高橋千佳子・松谷明美(2013).11 月 15 日

'Learning English Phrasal Verbs with Audiovisual Aids' the 6<sup>th</sup> International Conference "ICT for Language Learning" イタリア、フィレンツェ

高橋千佳子・松谷明美(2013).6 月 28 日

'An Empirical Classroom-Based Study of English Phrasal Verbs' ICLC-12 国際認知言語学会第 12 回大会 カナダ、エドモントン、アルバータ大学

高橋千佳子・松谷明美(2013).6月3日  
'A Cognitive Linguistics Approach to  
Teaching English Phrasal Verbs' カナダ  
応用言語学会 2013年大会 カナダ、ビクト  
リア大学

高橋千佳子・松谷明美(2012).5月6日  
'An Empirical Study of English Phrasal  
Verbs from the Cognitive Grammar  
Perspective' (ポスター) CLDC2012 第6回  
大会 台湾国立大学

高橋千佳子・金子智香(2011).9月12日  
「プロトタイプ理論を用いた英語前置詞の  
実践的授業」第11回日本認知言語学会  
立教大学池袋キャンパス

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

高橋 千佳子 (TAKAHASHI, Chikako)  
東京純心女子大学・現代文化学部・国際教  
養学科・准教授  
研究者番号：80350528

### (2) 研究分担者

松谷 明美 (MATSUYA, Akemi)  
高千穂大学・人間科学部・教授  
研究者番号：60459261

### (3) 連携研究者

なし